



日本のサイバーセキュリティを「連携」「学び」「創造」

JNSA 調査・研究部会
OTセキュリティWG 活動紹介
「OTセキュリティを共創するJNSAの挑戦」
- OTセキュリティWG 活動報告 -

23rd July 2026
サブリーダー 藤原

OTセキュリティWG 活動目的・計画について



リーダー：フォーティネット 佐々木・藤原

1. WGの活動目的

OTセキュリティの文化醸成を目的とした調査・研究および普及啓発活動を通じ、会員企業および個人の知見を集約・体系化し、産業界へ実践知として還元する。これにより、日本のOTセキュリティにおける知の中核（Center of Excellence）として国内外への情報発信と連携を推進し、健全な市場成熟を促進する。

その成果をもってJNSAの社会的価値を高めるとともに、参画する個人および企業の価値向上へと還元し、産業分野における自助・共助・公助の実現に寄与する。

2. WGの活動計画（5つのコア活動）

- ・ OTセキュリティ人材育成、企業価値向上のためのアワード制度設立：SWG1
 - ・ Green University of Tokyo Project（GUTP）協賛 工場セキュリティガイドライン普及啓発イベント協賛：SWG2
 - ・ 経済産業省/工場セキュリティガイドラインを軸とした各種ガイドラインの関係整理、ブラッシュアップ：SWG2
 - ・ 産業関連多団体との連携、OTセキュリティにおける取組み・課題などの情報共有・意見交換：SWG2
 - ・ JNSA 国際連携部会との協力による、OTセキュリティ支援海外展開・情報発信：SWG3
- * JNSA会長、そして経産省、GUTP+ECC等で同様に座長を務めてこられた東京大学 江崎先生へアドバイザーとして参画いただき、最新動向含めた活動推進を行う

メンバー72名(2026/5/8 時点)、上記活動計画に基づき、3つのSWGで精力的に活動をしています
発足以来、118回のMTG実施、今年度は25回のMTG実施

活動計画と実績_SWG1

OTセキュリティ人材育成、企業価値向上のためのアワード制度設立

リーダー：NTTドコモビジネス 加島、日立ソリューションズ 扇

OTセキュリティアワード制度 目的と新設の背景

現場の取り組みを称え、JNSAの知見と企業の力をつなぎOTセキュリティ文化を広げる



PR TIMES プレスリリース・ニュースリリース配信サービスのPR TIMES

プレスリリースを受信 企業登録申請 ログイン

Top | テクノロジー | モバイル | アプリ | エンタメ | ビューティー | ファッション | ライフスタイル | ビジネス | グルメ | スポーツ

特定非営利活動法人日本ネットワークセキュリティ協会

会社概要 プレスリリース

フォロー



JNSAがOTセキュリティ アワード2026の選考結果を発表 ～NECプラットフォームズ（福島事業所・掛川事業所）、リコーインダストリー（東北事業所）の3工場を表彰～

JNSA 2026年7月9日 13時00分



特定非営利活動法人 日本ネットワークセキュリティ協会（JNSA、会長：江崎 浩）は、工場・プラントなどの製造業における優れたOTセキュリティの取り組みを表彰する「JNSA OTセキュリティ アワード 2026」の選考を実施し、受賞となる3工場を決定いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

■ 実施の背景と選考について

近年、製造業を狙ったサイバー攻撃が増加傾向にあり、事業継続の観点から工場のセキュリティ対策が不可欠となっています。JNSAは、OT（Operational Technology）領域におけるセキュリティ対策の重要性を広く啓発し、日本の産業界にOTセキュリティの文化を醸成することを目的として、本年3月に「OTセキュリティ アワード」を創設いたしました。

初回となるOTセキュリティアワード2026では、ご応募いただいた企業の取り組みについて、組織・運用・技術・サプライチェーンマネジメントの各観点における成熟度に加え、仕組みの整備（ステータス）と実効性（エフェクティブネス）、更にOTセキュリティ対策と製造業のリスク低減活動との関係を重視した審査（現地ヒアリング等を含む）を行いました。その結果、以下の3工場の取り組みが極めて優秀であると認められ、表彰を決定いたしました。



【目的と背景】

JNSAはこれまで、ネットワーク社会の情報セキュリティレベルの維持・向上及び日本における情報セキュリティ意識の啓発に努め、情報化社会へ貢献することを目的として活動を行ってきました。

このような背景から、工場を含むOTセキュリティの文化醸成をめざし、新たに表彰制度を設立いたしました。

受賞者には表彰状および表彰楯を授与すると共に広く一般に告知いたします。この賞が日本において、OTセキュリティが根付く発端となり、より良い社会を実現できる一助になればと考えています。

【評価の指標】

経済産業省公開「工場システムにおけるサイバー・フィジカル・セキュリティ対策ガイドライン」チェックリスト（抜粋15項目程度）による組織、運用、技術、サプライチェーンマネジメントの観点の成熟度評価、およびヒアリング(現場見学含む)結果による

- ・ ステータス（説明責任、仕組みがあるか否か）とエフェクティブネス（**実効性とPDCAが回せているか**）の2軸を評価
- ・ **OTセキュリティ対策の目的と製造業のリスク低減活動**の関係性整理がなされているか

OTセキュリティアワード 2026 受賞拠点企業決定

アワード初年度はNECプラットフォームズ殿、リコーインダストリー殿が受賞！（7/9）



NECプラットフォームズ株式会社
福島事業所 殿 🏆

NECプラットフォームズ株式会社
掛川事業所 殿 🏆

リコーインダストリー株式会社
東北事業所 殿 🏆

【表彰理由】 🏆

製造ライン単位でのマイクロセグメンテーションやSOC監視を導入し、OTネットワークを継続的に運用・改善されている点を高く評価しました。また、過去の経験を教訓として、ライン停止判断を含むBCP訓練やインシデント対応訓練を継続的に実施し、改善活動へ反映されている点は、OTセキュリティにおける高い実効性を示す優れた取り組みです。

【表彰理由】 🏆

経営層、セキュリティIT統括部門、OT管理部門、現場が連携した統制体制を構築し、BCP・教育・ネットワーク運用を含めたOTセキュリティ推進を継続されている点を高く評価しました。また、製造ライン単位でのマイクロセグメンテーションやSOC監視を導入し、工場ごとの実態や運用負荷を考慮しながら、段階的にルール整備・適用範囲拡大を進めている点は、現実的かつ持続可能なOTセキュリティ推進モデルとして優れた取り組みです。

【表彰理由】 🏆

「5S+S（Security）」という現場目線の考え方を通じて、OTセキュリティを製造現場へ自然に融合し、更にはBCP・DX・現場改善と一体で推進されている点を高く評価しました。また、“工場を止めない”という製造業本来の目的を起点に、教育・訓練・意識調査・改善活動を継続的に実施されており、OTセキュリティを文化として定着させている点は、国内製造業における優れた実践例です。技術対策の観点も高く評価しました。

🏆 受賞拠点、企業の皆様、おめでとうございます！！ 🏆

JNSAは、本アワードで発掘された優れた実践モデルを社会全体に広く共有することで、日本においてOTセキュリティの文化醸成となり、より安全で持続可能な産業基盤の構築に寄与できるよう活動を推進してまいります。なお、本アワードは今後も継続的な開催を予定しており、2027年には「OTセキュリティアワード2027」の実施を計画しています。

活動計画と実績_SWG2

- ① Green University of Tokyo Project (GUTP) 協賛 工場セキュリティガイドライン普及啓発イベント協賛
- ② 経済産業省/工場セキュリティガイドラインを軸とした各種ガイドラインの関係整理、ブラッシュアップ
- ③ 産業関連多他団体との連携、OTセキュリティにおける取組み・課題などの情報共有・意見交換

SWG2 リーダー：NECセキュリティ 桑田、TXOne 今野、フォーティネット 高橋、EY 石田、NTTデータ 堰根

① GUTP 協賛 工場セキュリティガイドライン普及啓発イベント 継続実施中



JNSA会長である東京大学 江崎先生が座長を務めるOTセキュリティ総本山イベント💡(隔月程度開催)

■ 2023年2月よりこれまで21回実施
現地：50名程度 リモート：80 - 100名程度

第22回	2026年9月22日(金)
第21回	2026年7月17日(金) 経済産業省、富士ホールディングス、VLCセキュリティ
第20回	2026年4月24日(金) 日本精工株式会社、Nozomi Networks、京都大学
第19回	2026年2月27日(金) NTT、JNSA OT WG、名古屋工業大学
第18回	2025年12月10日(水) TXOne、クラロティ、テリロジー、マクニカ、フォーティネット
第17回	2025年10月3日(金) JNSA西日本支部、バリックコンサルティング、味の素(株)
第16回	2025年7月2日(水) 大日本印刷、参天製薬、デロイトトーマツ
第15回	2025年5月9日(金) (株)リコー、製品評価技術基盤機構、(株)竹中工務店
第14回	2025年2月28日(金) 経産省サイバーセキュリティ課、(株)テリロジー、日本電子(株)
第13回	2024年12月6日(金)自動車工業会、クラロティ、日立チャネルソリューションズ
第12回	2024年10月9日(水) DMG森精機、ロックウェルオートメーション、フォーティネットジャパン
第11回	2024年7月26日(金) NTT Communications, CCDS/日立チャネルソリューションズ、三菱電機
第10回	2024年6月5日(水) JNSA西日本支部、JFEスチール、テフズード
第9回	2024年4月19日(金) 華為、シスコシステムズ
第8回	2024年2月16日(金) 味の素(株)、サイバーコマンド(株)、Fortinet Japan
第7回	2023年12月14日(木) 経済産業省、CyCraft、NEC
第6回	2023年10月19日(木) 日本海事協会、NECプラットフォーム、Claroty Ltd.
第5回	2023年7月28日(金) 栗田工業、Cisco Systems、トレンドマイクロ
第4回	2023年6月9日(金) TXOne、日立チャネル
第3回	2023年4月28日(金) NEC、日立、NRIシステムテクノ
第2回	2023年3月3日(金)：TXOne、PFU、情報処理安全確保支援士会、フォーティネットジャパン
第1回	2023年2月3日(金)：FFRI、フォーティネットジャパン、三菱電機

講演者随時募集中！！
ご興味ある方は
OTセキュリティWG藤原まで
連絡ください！

■ イベント開催の様子



啓発セミナーの意図

- OTセキュリティの重要性が高まる中、実践的な知見とノウハウを共有し、業界全体のセキュリティレベル向上を目指す

OTセキュリティの知見・ノウハウの総本山へ

- 産業界、学术界、セキュリティベンダーなど、各分野の有識者が講師として参加し、最新の技術動向や実践事例を共有
- 知見とノウハウを集約し、業界のベストプラクティスを確立
- OTセキュリティ関係者にとって「知っていて当たり前」の知識基盤となることを目指す

② 各種OTセキュリティガイドラインを軸とした関係整理

「OTセキュリティに関する国内外の主要ガイドラインの調査報告書」公開（6/30）



PR TIMES プレスリリース・ニュースリリース配信サービスのPR TIMES

プレスリリースを受信 企業登録申請

Top | テクノロジー | モバイル | アプリ | エンタメ | ビューティー | ファッション | ライフスタイル | ビジネス | グルメ | スポーツ

特定非営利活動法人日本ネットワークセキュリティ協会

会社概要 プレスリリース

成果物「OTセキュリティに関する国内外の主要ガイドラインの調査報告書」を公開

JNSA 2026年6月30日 13時00分



特定非営利活動法人 日本ネットワークセキュリティ協会（会長：江崎 浩）の調査研究部会 OTセキュリティワーキンググループ サブワーキンググループ2は、「OTセキュリティに関する国内外の主要ガイドラインの調査報告書」を公開しました。

■掲載URL「OTセキュリティに関する国内外の主要ガイドラインの調査報告書」

<https://www.jnsa.org/result/otsec/2026.html>

■目的

本資料は、経済産業省「工場システムにおけるサイバー・フィジカル・セキュリティ対策ガイドライン」を基軸として、国内外の主要なOTセキュリティ関連ガイドライン、標準、手引書等を比較・整理したものです。製造業におけるDXの進展やIT/OT接続の拡大に伴い、工場システムに求められるセキュリティ対策は高度化・複雑化しています。一方で、関連文書は多数存在しており、それぞれ対象、記載内容、活用場面が異なるため、実務において参照すべき文書を判断することは容易ではありません。そこで本資料では、工場セキュリティガイドラインを基準として、各文書の特徴、適用範囲、相互関係を整理し、組織の状況や目的に応じた文書の選択および活用に資する基礎資料となることを目指しました。主な利用者としては、工場セキュリティに取り組む実務担当者のほか、経営層、業界関係者、ベンダー等を想定しています。

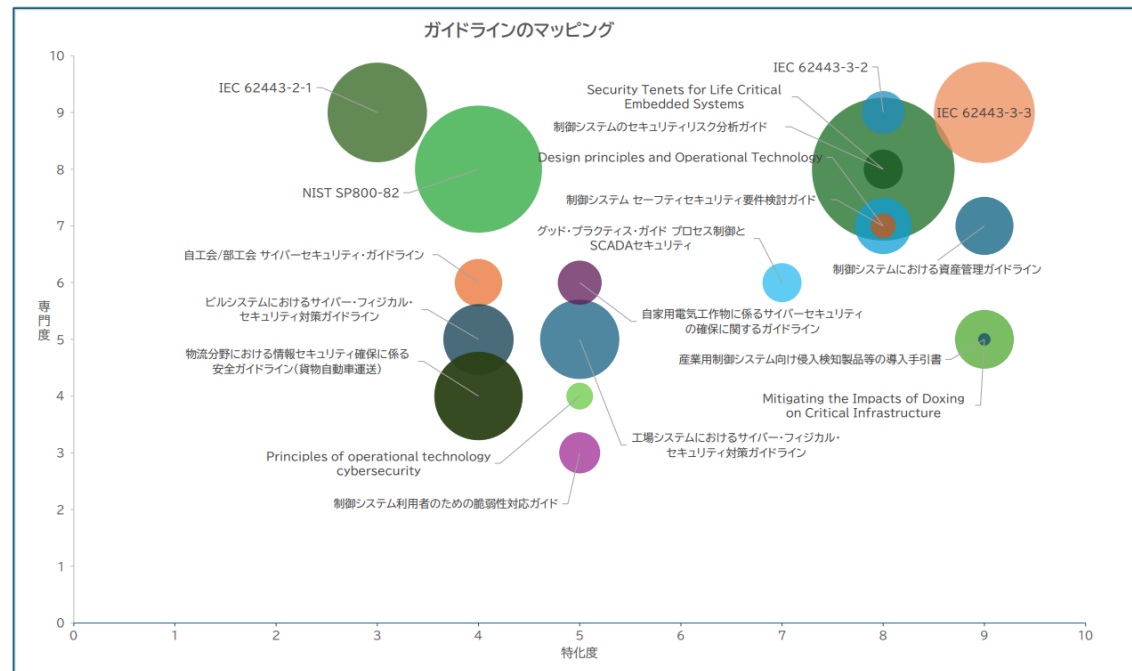


図. 成果物より抜粋

【成果物ポイント】

- 経産省 工場セキュリティガイドラインを基軸に、国内外の主要OTセキュリティ関連文書を比較・整理
- 各ガイドラインの特徴、適用範囲、相互関係を可視化し、実務で参照しやすい形で成果物化
- 製造業、経営層、実務担当者、ベンダー等が、自組織の状況に応じて活用できる基礎資料として公開

③ 他団体連携 - OTセキュリティにおける取組み・課題などの情報共有・意見交換 - JEMIMA(一般社団法人 日本電気計測器工業会) との連携 - 計測展Next 2026 出展 -



計測展 **NEXT** 2026

開催テーマ 開催概要 前回の実績(2024年) 出展・協賛のご案内 産学交流

計測・制御・情報の フェスティバル

計測展 **NEXT** 2026

共創で築く
未来へのイノベーション

2026.10.21-23 **グランキューブ大阪** 大阪国際会議場
10:00-17:00 <https://mcs-next.jp/>

計測展NEXT 2026 注力テーマ

成長やイノベーションを起こすエンジンに

計測・制御・情報の最新技術やソリューションを発信!
「はかる・見える・変える」技術で様々な社会や
製造業の課題を解決する

2

新たな価値を 生み出すAI活用

設備の異常検知や予測制御、
データの解析などAI搭載の製品・
ソリューションで違いを見せる

4

人財(学生)・産学連携

DXやAIの活用を担う
産業界の次世代人材との交流、
理工系研究室との連携強化を図る

計測・制御・情報の フェスティバル

計測展 **NEXT** 2026

1

現場DXの推進

クラウド・IoT・AIなどの
先端技術を導入することで、
現場の効率化や可視化・遠隔操作・
予測保全・品質管理などを改善する



3

サイバー セキュリティ対策

不正アクセスによる生産ラインの停止や
情報漏えいなど、最新のOTセキュリティ技術で
ネットワークの安全を守る



【特別講演】講演者：OTセキュリティWG サブリーダー 藤原

- 日時：2026年10月22日(木) 15:00~16:00
- 会場：グランキューブ大阪 1001会議室
- 講演タイトル：
- 日本ネットワークセキュリティ協会(JNSA)の活動実績
ー OTセキュリティ表彰、ガイドラインマッピング、ASEAN進出日系企業支援 ー
- アブストラクト：

JNSA OTセキュリティWGは、企業・専門家・団体がつながり、知見を持ち寄り、現場に役立つ価値を共創する場として活動しています。本講演では、WG発足の背景、アワード制度、ガイドライン普及、ASEAN支援などの取り組みを紹介し、OTセキュリティを前に進める“参加する価値”と今後の展開をお伝えします。

【出展目的と内容】

- 他団体連携の一環として、OT系のイベントに対して、OTセキュリティに取り組むJNSAの認知と価値を高める
- JNSA内部連携などJNSA内外の知見を踏襲し、OTセキュリティのCoEを目指す活動の第一歩とする
- 認知向上による次年度以降の活動、参加・連携先の募集、来場者の声の収集につなげる

区分	出展内容
OT SWG1	OTセキュリティアワード制度と受賞3社の実績
OT SWG2	6月末公開のガイドラインマッピング、セキュリティガイドライン普及啓発イベント実績
OT SWG3	ASEAN日系企業向けOTセキュリティ診断PoC実績、採択済み補助事業、ソリューションガイド
西日本支部	工場を守る：サイバーセキュリティ必須ガイド～工場セキュリティ対策ハンドブック3部作の活用～の紹介

活動計画と実績_SWG3

JNSA 国際連携部会との協力による OTセキュリティ支援海外展開・情報発信

SWG3 リーダー：テリロジー 御木、クラロティ 加藤、フォーティネット 小泉

JNSA 国際連携部会との協力によるOTセキュリティ支援海外展開・情報発信



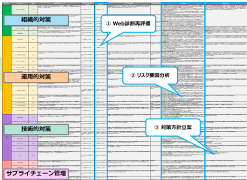
日系ASEAN拠点企業へのOTセキュリティ診断PoC支援モデルの確立

	Step1: アセスメント	Step2: フォローアップ	Step3: 対策実装
目的	現在のOTセキュリティの成熟度レベルとリスク要因を理解・可視化する	評価結果に基づき、主要項目について「次の行動計画」を策定する	本施策における対策の実施範囲はこのイニシアチブの対象外である。
活動内容	- WEB自己診断(32問) - オンラインヒアリング (2時間) - 現地訪問 (1日)	ディスカッション x 1 (オンライン1 ~1.5hr)	継続的な支援に関する提案は別途取り扱うこととする。
成果物	- エグゼクティブサマリ資料 - 詳細評価シート(チェックリストベース)	ディスカッション内容の議事録	

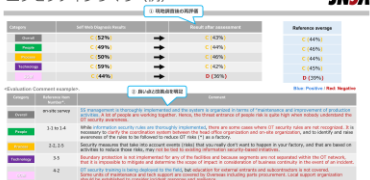
◆ 簡易Web診断+深掘りヒアリング



◆ 現地調査（生産活動の維持(5S・KY)目標）



エグゼクティブサマリ（例）

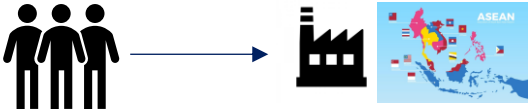


OTセキュリティ簡易診断

まずはWeb診断で簡単に状況を把握、
やるべきことの整理

現状把握とリスク要因分析

ビジネスリスクを想定したITとOTのリスクの違い
を認識し、自分ごととなれる仕組みづくり



SWG3メンバー/OTセキュリティ専門家による実施

現在のOTセキュリティの成熟度レベルとリスク要因を理解・可視化する

ITとは異なるリスク認識とリスクの連鎖を理解し、「自分ごと」化への伴奏支援を実現（2025年1回実施）



項目	評価項目	評価	評価理由	評価項目	評価	評価理由	評価項目	評価	評価理由
組織的対策	方針・計画の策定	3-1	方針・計画が策定されているが、具体的な実施計画が不明確である。	組織的対策	3-1	組織的対策の成熟度レベルは3-1である。	組織的対策	3-1	組織的対策の成熟度レベルは3-1である。
	組織体制の構築	3-2	組織体制が構築されているが、役割分担が不明確である。	組織的対策	3-2	組織的対策の成熟度レベルは3-2である。	組織的対策	3-2	組織的対策の成熟度レベルは3-2である。
	教育・研修の実施	3-3	教育・研修が実施されているが、内容が浅い。	組織的対策	3-3	組織的対策の成熟度レベルは3-3である。	組織的対策	3-3	組織的対策の成熟度レベルは3-3である。
	関係機関との連携	3-4	関係機関との連携がとれているが、連携の質が低い。	組織的対策	3-4	組織的対策の成熟度レベルは3-4である。	組織的対策	3-4	組織的対策の成熟度レベルは3-4である。
	評価・改善の実施	3-5	評価・改善が実施されているが、改善の効果が低い。	組織的対策	3-5	組織的対策の成熟度レベルは3-5である。	組織的対策	3-5	組織的対策の成熟度レベルは3-5である。
運用的対策	リスク要因の特定	2-1	リスク要因が特定されているが、リスクの連鎖が不明確である。	運用的対策	2-1	運用的対策の成熟度レベルは2-1である。	運用的対策	2-1	運用的対策の成熟度レベルは2-1である。
	リスク要因の評価	2-2	リスク要因が評価されているが、評価の精度が低い。	運用的対策	2-2	運用的対策の成熟度レベルは2-2である。	運用的対策	2-2	運用的対策の成熟度レベルは2-2である。
	リスク要因の連鎖	2-3	リスク要因の連鎖が不明確である。	運用的対策	2-3	運用的対策の成熟度レベルは2-3である。	運用的対策	2-3	運用的対策の成熟度レベルは2-3である。
	リスク要因の連鎖	2-4	リスク要因の連鎖が不明確である。	運用的対策	2-4	運用的対策の成熟度レベルは2-4である。	運用的対策	2-4	運用的対策の成熟度レベルは2-4である。
	リスク要因の連鎖	2-5	リスク要因の連鎖が不明確である。	運用的対策	2-5	運用的対策の成熟度レベルは2-5である。	運用的対策	2-5	運用的対策の成熟度レベルは2-5である。
技術的対策	セキュリティ対策の実施	1-1	セキュリティ対策が実施されているが、対策の効果が低い。	技術的対策	1-1	技術的対策の成熟度レベルは1-1である。	技術的対策	1-1	技術的対策の成熟度レベルは1-1である。
	セキュリティ対策の実施	1-2	セキュリティ対策が実施されているが、対策の効果が低い。	技術的対策	1-2	技術的対策の成熟度レベルは1-2である。	技術的対策	1-2	技術的対策の成熟度レベルは1-2である。
	セキュリティ対策の実施	1-3	セキュリティ対策が実施されているが、対策の効果が低い。	技術的対策	1-3	技術的対策の成熟度レベルは1-3である。	技術的対策	1-3	技術的対策の成熟度レベルは1-3である。
	セキュリティ対策の実施	1-4	セキュリティ対策が実施されているが、対策の効果が低い。	技術的対策	1-4	技術的対策の成熟度レベルは1-4である。	技術的対策	1-4	技術的対策の成熟度レベルは1-4である。
	セキュリティ対策の実施	1-5	セキュリティ対策が実施されているが、対策の効果が低い。	技術的対策	1-5	技術的対策の成熟度レベルは1-5である。	技術的対策	1-5	技術的対策の成熟度レベルは1-5である。
サプライチェーン管理	サプライチェーンの管理	0-1	サプライチェーンの管理が不明確である。	サプライチェーン管理	0-1	サプライチェーン管理の成熟度レベルは0-1である。	サプライチェーン管理	0-1	サプライチェーン管理の成熟度レベルは0-1である。
	サプライチェーンの管理	0-2	サプライチェーンの管理が不明確である。	サプライチェーン管理	0-2	サプライチェーン管理の成熟度レベルは0-2である。	サプライチェーン管理	0-2	サプライチェーン管理の成熟度レベルは0-2である。
	サプライチェーンの管理	0-3	サプライチェーンの管理が不明確である。	サプライチェーン管理	0-3	サプライチェーン管理の成熟度レベルは0-3である。	サプライチェーン管理	0-3	サプライチェーン管理の成熟度レベルは0-3である。
	サプライチェーンの管理	0-4	サプライチェーンの管理が不明確である。	サプライチェーン管理	0-4	サプライチェーン管理の成熟度レベルは0-4である。	サプライチェーン管理	0-4	サプライチェーン管理の成熟度レベルは0-4である。
	サプライチェーンの管理	0-5	サプライチェーンの管理が不明確である。	サプライチェーン管理	0-5	サプライチェーン管理の成熟度レベルは0-5である。	サプライチェーン管理	0-5	サプライチェーン管理の成熟度レベルは0-5である。

＜主なアクティビティと効果＞

- ① Web診断の結果をヒアリング＋現地訪問
 - ・ IT担当、OT担当それぞれに対してヒアリング実施＋現地調査
 - ・ チェックだけでは分からない生産活動を守るための既存ルールなどを現地で確認
- ② リスク要因分析
 - 被監査企業に何が問題か理解を頂くためにリスク要因丁寧に解説
- ③ 対策方針立案
 - FIT&GAPだけではなく、リスクの本質を理解することで何のための対策なのか、やらないと何が起きる可能性があるのか、を理解してもらい、粒度、範囲、優先順位設計に役立てる

今年度の活動計画とGS補助金事業 参画について

これまでの日系ASEAN拠点企業へのOTセキュリティ診断 支援の座組を補助金事業として実施決定！（6/30）



SWG3の今後の活動計画

① 提案活動・参加企業拡大（Task1）

ASEANの日系製造業へOTセキュリティ支援を広げ、支援企業を継続的に増やす

HOW?

- ・ イベント・セミナー等で活動を発信
- ・ ASEAN日系企業へのOTセキュリティ診断（PoC）を提案
- ・ GS補助金事業なども活用し、支援機会を拡大

② サービス実施・品質向上（Task2）

継続的に高品質なOTセキュリティ診断を提供できる仕組みを構築する

HOW?

- ・ FY25診断企業へのフォローアップ
- ・ 診断テンプレート・ツールの標準化
- ・ 実施結果を反映したサービス改善とエグゼキューション

③ サービス高度化・提案導線整備（Task3）

診断結果を一過性で終わらせず、具体的な課題解決（ソリューション提案）につなげる

HOW?

- ・ OTセキュリティソリューションの情報収集
- ・ ソリューションマップ・提案ガイドの整備
- ・ 診断結果から具体的な提案へつなげる導線を支援

[申請・お問合せ](#) | [English](#) | [サイトマップ](#) | [本文へ](#) | [文字サイズ変更](#) 小 **中** 大 | [アクセシビリティ
閲覧支援ツール](#)

[ニュースリリース](#) | [会見・談話](#) | [審議会・研究会](#) | [統計](#) | [政策について](#) | [経済産業省
について](#)

[ホーム](#) ▶ [申請・お問合せ](#) ▶ [調達・予算執行](#) ▶ [採択結果](#) ▶ 令和7年度補正「グローバルサウス未来志向型共創等事業費補助金（小規模実証・FS事業）」に係る間接補助事業者の採択結果について

令和7年度補正「グローバルサウス未来志向型共創等事業費補助金（小規模実証・FS事業）」に係る間接補助事業者の採択結果について

2026年6月30日
通商政策局
貿易振興課

令和7年度補正「グローバルサウス未来志向型共創等事業費補助金（小規模実証・FS事業）」に係る間接補助事業者について、令和8年4月17日（金曜日）から令和8年5月11日（月曜日）までの期間をもって公募を行ったところ238件の応募がありました。

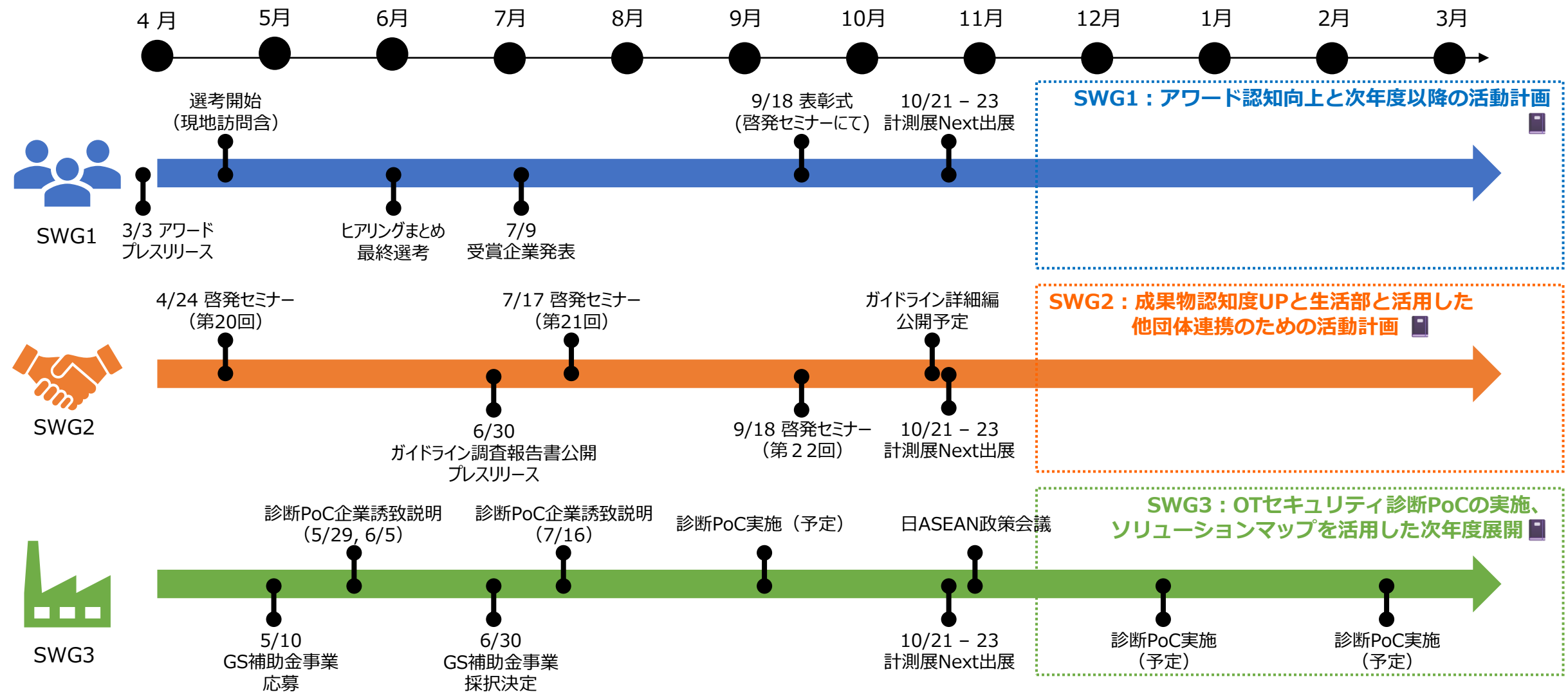
提案内容について外部有識者による審査委員会において厳正な審査を行った結果、以下65件の応募者を採択者として決定いたしましたので、お知らせいたします。

特定非営利活動法人日本ネットワークセキュリティ協会 (法人番号：8010405007664)	タイ王国・ベトナム社会主義共和国・マレーシア・インドネシア共和国・フィリピン共和国／日本国産サイバーセキュリティ技術事業化可能性調査事業	タイ王国を中心とする東南アジア5か国（タイ・ベトナム・マレーシア・インドネシア・フィリピン）における日本発のサイバーセキュリティ製品・サービスの市場参入可能性を、統一市場調査（机上＋現地ヒアリング・関係省庁訪問）を通じて検証する。
---	--	---

OTセキュリティWG これまでと今後のスケジュール



これまで通算：118回のMTG、今年度はSWG1 – 3合計：25回のMTGを実施



JNSA

OTセキュリティWG